



継 さらなる高みへ 合唱コンクールふりかえり 音楽主任 高橋 翔

先輩の合唱を聴き感動した後輩が、翌年、合唱に対する取り組みが変わり、より練習にも熱が入り、素晴らしい合唱を披露する。そして、その合唱を聴いた後輩が再び感動し、さらに次の世代へと伝統を受け継いでいく。今年度50周年目を迎える西川中学校では、体育祭だけではなく、合唱コンクールでも生徒会スローガン「継 ～さらなる高み～」をスローガンとし、およそ3週間の合唱強調週間、各クラスで練習に励んできました。

1年生は初めての合唱コンクールでしたが、本番のステージでは堂々と練習の成果を披露しました。強調週間での練習も初めてのことで手探りだったことと思います。それでも、最後にはどちらのクラスも良い雰囲気でもステージに立ち、緊張しながらも精一杯の歌声をかかせてくれました。

2年生は落ち着いた歌声できれいなハーモニーを響かせました。昨年の合唱コンクールに比べ、強調週間での取り組みが格段に良くなり、クラスで課題や気をつけるポイントを確認しながら熱心に練習を進める姿が見られました。現3年生も含む先輩の合唱を聴いた経験が生きているのだと思います。

3年生は、豊かな響きの大人の歌声を響かせました。他の学年に比べ、難易度の高い曲でしたが、どのクラスも曲に向き合い、クラス一丸となって楽曲づくりに励んでいました。入学したときからパワーのある学年だった現3年生。昨年も素晴らしい合唱を披露していたのですが、今年はそこにさらに「こう歌いたいんだ」という表現の工夫がみられ、各クラスの特徴を生かしたより一層レベルの高い合唱を聴かせてくれました。

この合唱コンクールを通して、様々な経験をしたことと思います。大切なのは、この経験を合唱コンクールで終わらせず、これからの学校生活に生かしていくことが大切です。それが、自分自身や集団の成長につながります。そして、この合唱コンクールで学んだことを、さらに次の世代へと継承していき、新しい西川中学校の伝統を築いていってくれることを期待しています。



合唱コンクール生徒の感想

3年1組 指揮者

指揮をしてみても私は楽譜通りに振るだけではなく、歌う人にとってどう見えるか、どうしたら歌いやすくなるかを考えることの大切さを感じました。「生きている証」の歌い始めには伴奏がないため、入りに苦戦しましたが、息を合わせられるように振り方を工夫したり、みんな練習を重ねたりしたことで、次第にアカペラでも歌えるようになりました。リーダーを中心に意見を出し合い、最高の合唱をつくり上げることができました。

3年2組 指揮者

最後の合唱コンで初めて指揮をやってみて想像以上に大変で、大切な役だと感じました。肩の力が抜けず、打点が強くなりすぎたり、力が入ったりする癖がありましたが、本番は楽しく指揮をすることができました。練習では、みんなが歌いやすいように高橋先生や鷺尾先生からアドバイスをもらいながら、自分でも工夫して行うことができました。優秀賞は取れなかったけれども、3年間で一番楽しい合唱コンだったと思います。

3年3組 指揮者

3組はすごく意識が高く、全員が一丸となって声を出していました。指揮者の私もその気迫に後押しされ、妥協せず毎日練習をしました。おかげで、全員の歌声・伴奏・指揮が本番ではバッチリ合い、優秀賞を取ることができました。これでまた、一段とクラスの団結が高まったと思います。

西川中学校創立50周年記念事業

記念事業実施にあたり、保護者の皆様、長きにわたり本校の教育活動を支えてくださっている後援会・同窓会の皆様から多大なるご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。完了した事業につきましてご紹介いたします。

生徒玄関校章と壁の清掃塗装



体育館入口側外灯



駐車場白線引き



生徒会旗の新調



11月7日（金）先輩と語る会 & 音楽鑑賞教室

テーマ: 継 さらなる高みへ ～可能性は無限！夢と目標をもって未来を切りひらく～

地元で活躍されている西川中学校卒業の先輩をお招きし、生徒が夢や目標をもって、未来を生き活きと生きるヒントを見出す時間になればと考えております。保護者の方も参加できますので、ご希望の方は、参加確認票の提出をお願いいたします。

□先輩と語る会

《ゲスト》

岩室地域児童館	館長	川邊	素子	様
新通つばさ小学校	教諭	眞島	佑弥	様
西川中学校	P T A会長	渡辺	藍紀	様

□音楽鑑賞教室

《内 容》 声楽（ソプラノ独唱・バリトン独唱・二重唱）

《演奏者》	ソプラノ	神田	幸子	様
	ピアノ	籠島	景子	様
	バリトン	高橋	翔	（当校教諭）

